

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討報告書
（素案）」に対する関係住民の意見聴取結果
【議事録】

平成 24 年 10 月

国土交通省九州地方整備局
独立行政法人 水資源機構

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 22 日（土）14:00～15:15

場 所：福岡県朝倉市 甘木・朝倉市町村会館（希声館）

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

私、うきは市民の会という市民団体がございますけれども、そこで活動しています●●といたします。計画、利水、治水、環境、財政、それと検討会について、簡単に端折って問題点を提起したいと思います。

まず第一点。計画の段階で私は大変な問題を含んでいるのではないかと考えています。とにかく筑後川から取水をするという、しかも高低差が 200 数十メートルありますよね、そして距離も十数キロあります。こんな無茶苦茶な計画があるのかなと考えています。極めて非常識であるというふうに思っております。

それから小石原川の氾濫の危険性ですね、これほとんどないと言っていいんじゃないか。この間、7 月 3 日、7 月 14 日、相当降りましたね。あの段階でも避難勧告が出ているというだけであって、大したあれは出ておりません。なお、筑後川の水位が上昇した場合、逆流という問題点が若干ありますし、逆にダムがあるがために放流の調整等のミスがあれば大変な氾濫が起こるといふ、そういう危険性もあります。

それから三点目ですけれども、今現在、県南地区は、筑後地区ですね、34%水が余っております。数字で言いますと、読んでみますと約 10 万トンでございます。これに 61,000 トン、大山ダムの水を使いますから大変な水余りで、小石原川ダムができますと、22 万トンの水が余るといふことで、67 万人分の水が余るといふ大変な事態となります。ちなみに、この筑後地区の広域水道整備計画がございますけれども、それでは実は使用者ですね、水道利用者が 841,000 人、それから需要水量が 367,000 トンとなっております、日量ですけど。これは一人あたまた大体 436 リットルで計算してます、一日の一人使用量で。実は昨年度、平成 23 年度の県南地区の一人使う量は一日 277 リットルなんです。これ全部私調べました、全市に。加入率も実は、この 831,000 人と整備計画でなっておりますけれども、だいたいこの数は平成 32 年度に予想していますけれども、ほぼ全人口に匹敵します。要するに給水人口 100%で見えます。しかも 436 リットルで設定している。こんな大変な水の量を使って計算すればなんぼでも足らなくなりますよね、水が。

それから四点目、環境に若干関係あると思いますけれども、スイゼンジノリがどうなるかという問題です。とにかく今はこの地球環境のメカニズムが誰にも分かってませんよね。なんか分かったかのようないろんな資料がありますけれども、ほとんど分かってないんじゃないですか。とにかくいろいろいじくったら大変なことになるということだけは我々素人もみんな分かっていると思います。

それから、うきは市では誰も、全く行政のほうは聞いてないんですけど、うきは市民の声はほとんど合所ダム、私のところにありますから、その水を使えばいいと、小石原川ダムの水なんていないと思っているんです。本当に地域の方にこの実情を話せば、そんなダムはいらないと、おそらくどこの地域の住民も言うんじゃないかと思っています。

それから、財政危機でございますね、今、1,000兆円を越す借金です。こんな状況の中で自分の村だけ、自分のところだけ考えとったらだめですよ。やっぱり日本全体としてどうあるかという視点からいくなれば、私はこれ大変な無駄使いであるというふうに思っております。とにかく、費用対効果と、こう思っておりますけれども、私、非常にきつい言い方をすると費用対効果うんぬん以前の問題がいっぱいあるということではないかと思っております。

それから最後に検討会です。この検討会は、全く賛成派ばかりでしょ。県南水道企業団参画の自治体の首長さんばかりでしょ。そんな方たちで検討して、いったい何を検討されたのかなと思います。全部イエスマンですよ。本当は、やっぱり公募して、関心の深い方いっぱいおりますから公募して、そして有識者会議といっしょになってやっぱりいろんな反対、賛成の意見を戦わせて、そして最終的に結論を出すという、これでないとは私は異常であると思います。計画も異常、検討会も異常というふうに思います。

最後に、せっかくですので、大変な悲痛な決意をなされた、水没されますよね、もし小石原川ダムができれば。そういう方たちには、もしこれが中止ということになると、大変割り切れない、大変な決意をされたんでしょうけれども。しかし、そこは私は全体のそういう視点に立って理解をしていただきたいと、そういうふうに思います。

もっと言いたいことがいっぱいあったんですけども、時間制限ということでございますので、端折って大変分りにくかったと思っておりますけれども、以上です。

○住民（2番）

みなさん、こんにちは。私はこのダムの建設にあたる上秋月のお世話をしております振興会長の●●です。今日は今説明がありましたけれども、私から4点ほど意見を言わせて頂きたいと考えます。

このダム建設の見直しが出て参りましてもう3年ほどになるわけでございますけれども。この小石原川ダムと我々関係のある地域整備計画は邁進するものだと思っております。切り離して事業を進むことはできない。地域振興策につきましてはですね、我々はどれだけの時間と努力をしたかわかってもらいたいなというふうに思っているところであります。

それから2番目。今お話がありましたように水没者のみなさん方がですね。どんな思いで移転をされたのか、あとで話もあると思っておりますけれども。我が町はですね。これらに対して人口減少、それに続いて過疎化がどんどん進んできております。ダム建設は進まず、整備事業もされず、町のにぎわい等もなくなりつつあります。まさに限界集落。ボロボロの町になっていく。こういう手伝いをしたのかと不安要素がいっぱいあります。

3番目に、特に今年の7月に起きました北部九州豪雨災害を考えると既に既定の江川ダムはですね、利水ダムであります。いつも満水状態を保っておるわけでございます。梅雨時期でもですね。満水のためどうしても放流しなければならない。直下流の地点では災害がでているわけでございます。

こういう中で、我々、直下流の住民と致しましては、願いは一つであります。一刻も早くですね。洪水調整ができるこの小石原川ダムの建設を着工していただきまして、ポケットを設置して頂きまして、安心して暮らせる町となるよう、強く願うところであります。

最後になりますけれども、上秋月の関係住民としては、このダム建設に対する地域の長年の苦勞と協力を考えるに至り、必ずつくってもらいたい。代替案等は受け入れがたい。これがこの町としての総合的意見でございます。

今後ともよろしくお願い申し上げます、意見と致します。

○住民（3番）

どうも、朝倉市の●●です。意見述べたく、いやになっちゃいました。なぜかと言うと、住民の意見を聞くと言いながら、5分間、5分間で何でしゃべれますか。これちょっと、水資源、反省してもらわないといけないと思いますよ。少なくとも、10分か20分ぐらいじゃないと、基本的なことしゃべられないでしょう。しかも、これは、会議後、返してくれと。なんですか、秘密文章じゃないでしょう。皆さんに渡すんですよ、これを。そして、皆さん、検討した結果をですね、十分吟味してもらおうということが、重要になってきていると思うんですよ。そういう面言えば、どこもね、もう問題提起するのが、いやになっちゃう気になってます。

この検討会議も、考えてみますとね、その、建設推進の市町村長ですよ。これ、公平じゃないですよ。少なくとも、有識者や、やっぱり、住民の、地域の人達に、参加してもらって、検討するというような、検討会じゃないのですか。推進する側ですから、市町村長もですね。

僕も朝倉出身ですけど、朝倉は水余りなんですよ、実は。いらないですね、これ、数字ありますけど。筑後、県南の資料があります、23年度の。これがですね、例えば久留米なんか56%しか利用していないんですよ、44%余っている、使っていないんですよ。これは、小石原川ダムに匹敵するものなんですよ。こういうのも、各市町村長が、将来を展望して、吟味してね、計画してるんじゃないんですよ。それから、水利権や、県南企業団から頼まれてるというか、ぜひ入ってくれてと言われて、入ったといわれているんですよ、聞いてみると。そういう形で、このダム検証を進めようとしていることについて、非常に、不満持ってますし、危機感を感じてるところであります。

今の方から言われましたので、申し上げますけれども、小石原川ダムの建設については、2,360億って言われてる訳ですね。しかし、完成時の建設総額は、当初予算の40%を上回るんだ、というのが、言われている現実になっています。そういう面では、この建設は、3,300億に増やされる、試算されているわけですよ。皆さん、税金です、これ我々の。だから、関係者が来だけじゃなくて、住民参加でこれは、検討してですね、作っていくとしないと、今の財政危機の中で、大変なことです。率直に申し上げます。

朝倉なんか、小石原川ダムができますと、本当70%水余りなんです。現状では、余っているんです。だから、そういう長期展望にたった試算をしないで、建設をしていると、いうことですね。だから、それ以上に、危機感を持っているわけですね、だから、こういうの皆さんに、見せたくない気持ちわかりますけど。

ホームページにありますよと、マスコミにも話してただけど、ホームページ、うちにないですもんね、ないですよっていうのは、圧倒的です、高齢者の人達もほとんど見れないわけね。これ全部ね、渡して、今日なんか、だから、ここに来て、目を通すという状況ですよ、意見を述べられるはずがない。それで、住民の意見を聞いたという、あなた達がね、発表するんだったら、それは、おかしいですよ。告示されてないでしょ。あげてる人だって、関係するところに、記者

発表がいつてるだけです。新聞社も聞いてないというか、一社だけ昨日聞いた。だから、新聞記者もほとんど来ていない。僕はですね、聞いていない。こういうですね、閉鎖的なやり方で、その、皆さんの意見を、対話を、期待する、そのものがですね、私は、問題だと思っています。

もう、5分になりますから、ですから、私達は、水環境問題研究会っていう、専門会を作っています。そして、色々和我々研究してるんですけども、率直に申し上げまして、小石原川ダムの建設は、必要ない、県南の水がこれだけ余っている、65%余っているんですよ、知ってるでしょ、水系の皆さん。そういうなかでね、今、人口どんどん減ってきてるわけですから。水は、減るんですよ、要は。そのことを踏まえて、やってもらいたい。で、私は、まあ、はっきり言わせれば、ダム建設は、税金の無駄使いであると、小石原川ダムの建設は、すべきでないという結論に、我々は、達していますので、建設断念されるよう要請して、長い時間、申し訳ありませんでしたけど、意見に代えさして頂きたいと思います。

○住民（4番）

わたくし小石原建設に伴います木和田導水の問題について、特にこの問題は高木地区が関係ございますのでそういったことから地域を代表致しましてご意見を述べさせていただきます。まず、あの水資源というものはわたしは部落にとりましては本当に貴重な資源であります。特に財産というふうに考えております。

平成4年に筑後川総合開発の一環と致しましてこの木和田導水路の建設の要請が行政の方から地元を下ろさせてきたわけでございます。そこで私たち高木地区と致しましてもいろいろ協力いたしまして、佐田川、特に佐田川沿川の住民の生活、導水としての・・・それが一番の基本ではないかという結果で、当初は反対意見を表明してきたわけでございます。特に小石原川ダムというものは、流量が、水系が違いますので流路変更はまかりならんだろうという状況でございました。

その後、数度となく関係機関との協議を重ねまして最終的に住民大会を致しましてやはり国土保全あるいは人々の生活の安定、産業の発展、併せて高木地区の振興を願いながら同意を致しました。その後、高木地区にとりましても取水の対策委員会や振興計画検討委員会などを設置を致しまして数百回に及ぶ検討協議を重ねて今日に至っているところでございます。

特に河川の根源と言うのは山林であります。99%山林でございます私たちの地域にとりましては、現在の林業不振というのは最大の課題でございます。特に住民の高齢化やあるいは後継者の不足そういった事を抱えながら私たちは山と向き合って細々ながら生活を送っているわけでございます。特に佐田川の水を守ることはいかに山林を大切に管理をし保全をしていくことが最重要課題であることはわたくしたちは常に肝に銘じていかなければならないことではないでしょうか。

過去非公式の期間を含みますと約30年、小石ダム、木和田導水事業にどれだけ私たちは翻弄されて来たことか。簡単に賛成だ、あるいは反対かと言う前に佐田川の水の恩恵を受けながらそしてそれを愛して育った私たちは先人からの尊い遺産を後世にいかに有効に活用して、役立てていくべきか。そのために、木和田導水の有効活用というものを信じて、決断をいたしました我々の住民の切なる心情をご理解頂きたい。そして一刻も早く完成いただきますよう改めて強くお願いをいたす次第でございます。

簡単でございますが、いろいろとまた再三にわたる問題がございますけれども、私たちのこれまでの状況できました小石原川ダムに関わります木和田導水問題の一部の概略のご説明を終わらせていただきまして、みなさんのご意見を拝聴してまいりたいと思っております。終わります。

○住民（5番）

私は小石原川ダムの水没者の一員でございます。今日はこういったダムへ意見を述べさせて頂く機会を与えて頂きまして、本当にありがとうございます。

私どもの所に、三十数年前にですね、突然ダムの調査依頼がありました。その間、私どもは非常に、反対等の抵抗もありましたけれども、いろんな事を聞きながら、苦渋の選択をしてダムの調査を受け入れた訳でございますけれども。その間、三十有余年、非常に紆余曲折ございました。ダムの用途の変更だとか、環境アセスの法制化だとかいうことですね、相当なロスの間がございましたけれども、ようやく補償ということになりまして、私どもも肩の荷を下ろしたところでございますけれども、突然、政権が変わりまして、ダムの中止だと。再検証するというようなことになりまして、三年が経っておるわけでございますけれども、本当にあの私どもはですね、皆さん方が端から見るような訳にはまいりません。その当事者としては苦渋の選択、そして生活の制約を受けて、三十有余年過ごしてきた訳でございますけれども。突然こういったことになって、未だ、生活再建が完全に整っておりません。これは、いずれにしても、ダムを造るということになれば、この問題は解決しないということでございます。

皆さん方、いろんな意見もあると思います。確かに反対もございましょう。さっき言った話を聞きますと、水は今、余っているということでございます。確かに、現在はそうございましょう。しかし、未来永劫、本当に余るのかどうか。今の異常気象のなかでですね、本当にそれが保証できるのかどうか。私は本当に疑問だと思います。この前2、3日前ですけども、甘木の牛木橋のところで、年寄りの方と話をしたんですけども、「私たちはこの土地に八十有余年住んでおりますけれども、避難勧告が出たのは初めてですばい。今の気象はどうなっちゃうとですかな。」というような年寄りがおられました。確かにあそこに行ってみますと、あと20cmくらいで住宅の方に流れ込むような状況でございましたけれども。幸いにしてですね、大したあれはなかったようでございます。

いろんな意見があると思いますけれども、私どもは、やっぱりこのダムを造ってもらわなければ、私どもは今まで、明治以降私どもの地域は400年以上の歴史があるようでございます。そういったこと、伝統、文化、いろんなものを捨てて、こうして移転をしまいでございますけれども、これが止まってしまうと、私どもは何のために、生まれ育った土地を捨ててきたのか、本当に悲しい思いでいっぱいでございます。

皆さん方もいろんな考え方あると思いますけれども、せっかくこの走りかけたダムでございます。そしてまた代替案もいろいろ聞きました。江川ダムの掘削だとか、かさ上げだとかいうのはそんなに、犠牲はないと思いますけれども。小石原川の両岸のかさ上げだとか、ため池をつくるとかいうことになると、また、膨大な経費とそして多くの時間がかかる訳でございます。本当に20年、30年、今の気象状況で、無くていいものかどうか。私は非常に疑問でございます。

どうかひとつ、私は本来であれば、ダムを造ってくださいという立場ではございません。本来であれば、反対の立場でございますけれども、もう私もはすでに移転をしてきております。そういうことも、すごく、何が何でも早急にこのダムを造ってほしい。以上で終わります。

○住民（6番）

みなさんこんにちは、水没者の一員であります●●でございます。

今日こうして意見を聞く会を開かれたことを心から感謝申し上げたいと思います。検討委員会に2回ほど傍聴に行きました。その後2回、後で4回あっているようなんですが、その4回の中でこの報告書の中にも住民の意見というのは全くございません。実はあるのかなというふうに思ったら今日あるんだということで、私も発表者として申し込みをいたしました。

そして意見を聞くときに、立場、見方が変われば色々な意見があるんだなというのを今日実感致しました。私は水没者の一員で移転をしてきました。30数年前、ダム建設の話があり、さっき会長が言いましたように30数年間水没対策協議会を設立して会合を開いて参りました。その中でも小石原川ダム建設反対という方々もいらっしゃいました。

しかし、国、あるいは当時の建設省の方からどうしても水が必要なんだということで話があり、我々もいたしかたなく賛成をしたところでございます。そして今日を迎えました。水没者の一人として生活再建中でございます。ところが3年前、前原大臣が急に中止ということを行い、2年前、馬淵大臣がゴーのサインを出した。こういうふうに政治家、あるいは国、県、その思惑で私達は右往左往しなければならない時代が続きました。今でもそうです。

このダムができなければ私達は生活再建が中途半端になってしまいます。水特事業が行われないうふうになると地域、先程振興会長が言いましたように、上秋月地域あるいは水没者、大変困ったこととなります。この補償を誰がしてくれるのでしょうか。ぜひ私は解決方法として小石原川ダムを建設する以外にない。

そしてこの報告書の中にも16項目にわたって検討された報告書ができあがっております。この報告書の中にも公共団体でどこも反対しているところはありません。傍聴に行っても、特に久留米も県南地区の方は私達の町の上水道が25%しかできていない。ぜひつくって頂きたいという話を聞いております。県南地区の水道企業団にも行って企業長の話を聞いてまいりましたけれども、「ぜひ地元の方々も協力をお願いしたい。大変ご迷惑をかけるけれどもぜひ建設できるようにお願いしたい。」ということをおっしゃっていただきました。

そのことを踏まえて私達は先祖の土地を捨てて新しいところにきましたけれども、年配の方達は、「江川に帰りたい。」「草ぼうぼうになっているけどもまだ土地があるから帰りたい。」と切々と訴えられる方もおります。こういう水没者の気持ちを十分踏まえていただいて建設に進むように努力をしていただきたいというふうに思います。以上意見を述べさせていただきました。

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 23 日（日）14:00～15:00

場 所：佐賀県みやき町 コミュニティーセンターこすもす館

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

吉野ヶ里町から来ました●●と申しますが、実はこの住民の意見聴取と言うのは新聞ですね、昨日、一昨日、しかも小さな囲みで載っかった、それで初めて知ったんです。それで、私も小石原川ダムについてはいろいろ疑問を持っていたんですが、その今まで集めていた資料もまだ見る暇も集める暇もない、と言う状況で来ました。従ってここにある厚いのは今見た訳ですし、それから今日喋る用紙も受け付けてから、私も本当に発表が出来るかどうか分からんで来て、そしてこの場で用紙を書いて出しました。しかも私は、筑後川から水道水は取っておりますけど別に利害関係は何もありません。それから、川とかダムの専門家でもありませんので一住民として、しかも素朴な意見になると思いますが申し上げたいと思う訳です。

大まかに言うと私が申したい事は三項目ですが、一つは佐賀県にとって本当にこのダムは必要だろうか、要らないのではなからうかという事です。と言うのは、私たちの直ぐ隣の神埼市には城原川ダムが出来る事になっておりますが、そのダムについてはですね水は要らんとする、それで計画としても洪水調節だけになっています。それで知事さんが穴あきダムを提案するような状況です。神埼市は筑後川の下流域の町でもあります。それからもう一つの下流域の町として佐賀市がありますが、佐賀では嘉瀬川ダムが出来たんですが、嘉瀬川ダムの水も佐賀市は要らないと言って、嘉瀬川ダムには参画しなかったようですね。そう言う状況で何で小石原川ダムからの水を貰うようにせんといかん、というふうに疑問を持つ訳です。異常湧水と言うのがありますが、異常湧水っていうのをこれは完全に備えればこれはとてつもない水、ダムが要ると思うんですが、そう言う事で佐賀にとっては水は要らないのではないかとするのが私の素朴な意見の第一です。

第二の意見は、福岡にとっても本当にこのダムが要るだろうか。私の所では城原川ダムとか、それからもう一つは那珂川水系の、吉野ヶ里町ですから五ヶ山ダムの計画がありますが、そう言う事があっていろいろ考えさせられているんですが、とにかく福岡市が水が足らなかったのは昭和 53 年で、もうかなり期間が 30 年以上たっている。その間にはどうも福岡市は水対策がかなりもう出来ているように思いますし、それからどうも福岡市の水道の利用状況を見ても上昇している様子もない。それから人口が増えている様子もない。それなのにどうも小石原川ダムの一つの目的は福岡地区にあるようですけど、どうも私にはそれが分からないと言う事です。

私の申したい事はとにかく佐賀県にとっても水は要らないし、どうも福岡県にとっても小石原川ダムは不要ではなからうかと言う事を申し上げたかったわけでございます。どうも失礼しました。

○住民（2 番）

わたくしは、土地改良事業を関係している任意団体の●●と申します。

平成10年度にですね、水資源機構、当時は水資源開発公団っていったんですけども、筑後川下流用水事業が完成しまして、筑後大堰地点から、福岡・佐賀の農業地帯にですね、両岸に農業用水が一括して、取水されまして、配水するようになっています。それまでは筑後川沿川のですね、農地というのは、有明海の満潮時に遡上する、河川水、アオというんですけども、あれを、アオを灌漑用水として、利用している、利用しながら、営農が営なまれておりました。

しかしながら、今日ですね、灌漑期に筑後川上流、干天（かんてん）が続けば、河川水が激減しまして、2年に1回程度ですね、福岡・佐賀の農業団体、あるいは両県の方を含めましてですね、渇水調整を開いております。今年も6月中旬は、丁度、取水期になって、非常に筑後川の流量というのが減りまして、まさしく渇水調整を、2度ほど会議をやったんですけども、途中から、下旬から大雨がありましてですね、この渇水調整は解消できております。

冬場についてはですね、瀬の下40m³/sというのが、良く聞くのんですけども、下笠・松原のですね、再開発によって、不特定用水というのが確保されている。ただ、非ノリ期って言うんですか、これは確保されていません。これまでの説明のありました小石原川ダムによってですね、不特定用水が、まあ1千万トン以上確保されるということにつきましては、下流域としては、下流域でですね、農業をする我々としては、大いに期待をしているところでございます。

ただ、小石原川ダムの建設位置というのが、江川ダムの上流に建設されるということになっております。江川ダムの集水面積というのが30km²しかございません。まあそういうことから、これを見てもみますと、佐田川の方からですね、木和田導水路ということで、江川ダムのほうに導水されるという計画になっております。小石原川ダム自体もですね、流域というのが20km²しかございません。そこに4千万トンという水というのは、だいたい年間2,000mmが全部入ってきて4千万トンしかないものですから、多分貯まらないだろうという気がしております。

そういうことから、以前聞いたことがあるのんですけども、筑後川本川からですね、ポンプアップをして、水を持っていくダム群連携という事業を聞いておりますけども、これと一体的な整備をしないことには、この小石原川ダムの、この水源というのですか、水道というのですか、それは効果がないのではないかというふうに思うものですから。このダムだけ進めるのではなくて、ダム群連携とですね、一体的な整備をしていただくことによって、下流でですね、農業を営むものとしては、大いに効果があるというふうに思っておりますので、一体的な整備をお願いしたいということでございます。以上です。

○住民（3番）

みやき町の●●と申します。

この小石原川ダムということをはじめて聞いたのは、昨日一昨日なんですよ。ある住民の方からありますからと、とんでも無い、そんなことは今まではじめて聞いたということで、慌てて来たところではありますが、私は佐賀県の出資根拠が非常に不明瞭であると思えますね。数十億出資されるということで。というのは私はみやき町、筑後川を抱えた流域なんですよ。でここは有史以来、有利な、さきほど申されました有明海からのアオ用水、あの上からのアオ用水、上流あるいは有明海沿岸の水をですね、商業、工業あるいは農業用水に多大な影響をもって利用されている訳でございます。ところがみやき町になる前の旧三根町でございますが、この時点で筑後川大堰あるいは佐賀導水路というのが建設させられて、とにかく水の機能が特に農業機能については

その大堰の水を、大堰じゃなくて、佐賀導水路を利用しなさい、そしてそれが効率を生み出すよ
ということで、農民は泣く泣く説得に応じた訳でございますが、この平成7年頃アオ用水の放棄
ということで、有史以来のですね権利を放棄した訳です。これはやはり筑後川大堰のその有効性
がやはり福岡県の方に働いた結果、佐賀県は犠牲になった。特に筑後川流域の農家の方はですね、
そういうことを強く感じている訳でございます。

で、今回のダムということは、この筑後大堰にそれだけの利水それから治水、緊急時の安全調
整そういうものについての機能を果たしつつ、いったようでございますけれども疑問がありま
す。その中で筑後大堰を少々開放してもいいのではないかと。というのは、ただただ大水の調節
だけではなくてですね、三根町の大堰下流の支川がいっぱいあります。切通川、井柳川それぞれ
ありますけれどもその大潮の時はですね、有明海から水が上がってくる、水の行き先がないからで
すね、支流に上って来る、急激に、短時間で。そうするとその支流の流域はですね、田んぼが冠
水したり、生活道路が冠水したりしてるんです、現在。当初は考えていなかったと思うんですよ。
というのは大堰で止めて、久留米の水天宮、北野ぐらいまで上がっていたんですかね、大潮の時
上がっていたのが、それが行かないからですね、結局は大堰の下、下流の河川に流れ込んで、そ
ういような治水、いやあるいは利水じゃなくて、冠水のための大堰ではないのかということ数年
住民の批判がものすごくあるわけです。それについて私は、もしそのダムが完成すれば筑後大
堰をもっと開放して、そういうような住民が冠水しないような方法をとって頂きたい。というふ
うに思うわけです。大変長期に渡る多大な費用が要ると思いますが、そういうことも考えて有史
以来のアオ用水を放棄して、その上で今度は冠水するという非常に理解に苦しむ訳ですけどもい
かがでしょうか。以上です。

○住民（4番）

脊振から来ました●●と申します。

私もあの新聞で知ってですね、あの、来たんですけども。もうすでに4回開かれていることも
全く知らなかったんですね。ですから、もう少しあの、こういう説明会、検討会をされるのであ
れば、広く、こうなんというかな、前もって呼びかけて欲しいなと思ってます。

で、今分厚いやつをパーッと見たんですけども、全く読めないですよ、今渡されても。返し
てくれとなると全く検討できない。こういうものは何というんですかね。説明会でもなんでもな
いんですよ。

で、ちょっとあの河川部にですね、金曜日電話して聞いてたんですけど。小石原川の比流量は
いくらで計算してあるんですか。河川部の方に電話したんですけど、聞いてたんですけども。一
方、水資源公団の方で知ってあります？630トンかなんかさっき書いてあったんですけど、比流量
はいくらになってます？

こういう比較案がいっぱい出ているんですけども、洪水が前提になっているわけですよ。洪
水を過大に見積もって、こういういろんな計算をしても全く意味がないんです。というのがで
すね、今、昭和28年の筑後川の問題出てますけども、城原川ではですね、42mmしか降っていな
いんですよ。で、そのうち県があとで調べて300トンくらいしか流れていない。で、平成22年
に、と23年だったかな、あの城原が2回こう、かなり雨が降ったんですけども、60mmくらい降
っているんですよ。そのとき流れたのが440トンなんです。ところが建設省、国土交通省が言

っているのは780トンという言い方をしているんですね。全くあわないわけです。だから再計算をやるべきなんですよ、平成22、23年ということ。ですから、全くその信用できない、その数字そのものがですね。で、そういうデータを全部出してくださいと金曜日をお願いしてたんですけども、それは情報公開で取ってくれということなんですね、意見を言おうにもデータがなければ言えないんですね。

こういうのはですね、あの意見聴取会でもなんでもない。アリバイ作りですよ。とんでもないということですよ。以上です。

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 24 日（月）16:00～17:15

場 所：福岡県久留米市 福岡県久留米総合庁舎

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

福岡市に在住しております●●と申します。

私は既に昭和 53 年の福岡大渇水のと時から筑後川水問題研究会に所属して、30 数年水問題を勉強しております。色々言っておるんですが、皆様方のお手元に報告書素案の厚いのがあるとすれば、その 4-75、ちょうど真ん中ほどですかね。いわゆる新規利水の観点からの検討について申します。今のご説明にあったように最終的にはそういった資料を全部集約した上で小石原川ダムがいいんだということになっておりますが、その中で新規利水についてはどこが新規利水するかというと福岡県南広域水道企業団の広域水道事業と新たにうきは市が小石原川ダムに水源を求めて加わるということになっております。

で、それがどういうふうな状況で推計されているかということは色々細かいことはあるんですが、お手元の 4-78 ページをみてください。私達は今日本の人口がこれから急速に減っていくということを目の当たりにして、人口減少時代に社会資本の整備・維持どうするかというのが非常に大きな問題となっています。既に大幅につくられた社会資本、それはさまざまな分野ですが、そういったものに大きな更新の投資、維持の投資それが必要となっているにもかかわらず、新たに非常な水余りの中で更にダムをつくって利水するというのがこの 4-78 ページです。4-78 ページの上のカラーの図を見ていただきますと、平成 21 年までの需要は、ほぼ横這いです。ところがこれから 10 年後、人口が大幅に減るときにその真ん中にあるブルーの書いてあるこれが、例え水道用水を産業用水として使うにしても、あるいは利用率、いわゆる普及率が上がるにしても、普及率が上がるというのは 100 万人いる時の 90%は 90 万人ですが、50 万人に減って 100%になっても利用者は 50 万人なんですよね。そういったことを抜きで普及率が上がるなどというふうな形でこういう推計をしたこと自身が私にはとても理解できません。これがまず第 1 点です。

第 2 点目は、もっぱら県南水道、うきは市は県南に属しますがその需要を小石原川ダムだけに限定して検討しようとしていますが、既に現在持っている水道用水が大余りの状態です。福岡県の水道これがこの資料の原点になっていますが、現在福岡県の水道統計をみますと県全体として平均して 1 番ピークで使うのは水道施設の能力の 6 割です。6 割を最高るとき使うということは 4 割余しているということです。この県南地域においても全くその事情は同じです。そういった現実の事情があるということはどういうことかということ、小石原川ダム以外いっぱいダムがある、そういうところでもうダムが水余りしている。そういったものを適切に相互に利用して使う、これでもう小石原川ダムの利水が全く必要ないということが明らかなかわけです。さまざまなデータで私達は筑後川水問題研究会の会報等で報告しておりますからいちいちもう言いませんが、今、私申し上げましたように、現実の現段階でピークの能力の 6 割しか使われていないのに、これから少々水道水の普及率が高まろうと人口が大幅に減少していく中で水需要が絶対的に拡大するということは私には考えられません。このような計画をお作りになった方々が本当にど

ういう根拠に基づいてこういう推計をされたのかというのは、これまだ完全に行われていないと思いますけれどもこの資料でいいますと 6-19 ページですか、後ろの方です。学識経験を有するものからの意見の聴取とありまして、学識経験者から話が聞かれるはずですけども、学識経験の方々にもこここのところについてきちんと検討して欲しいということを伝えて頂きたいと思います。以上です。

○住民（2番）

5分と言う事でございますので、もう、ちょっといろいろ書いて来ておりますけど中抜きで発表したいと思います。

私、筑後川土地改良区の●●と申します、宜しくお願いします。

昭和 28 年の大洪水後の筑後川地域では、河川改修等の実施により大規模な洪水災害は起きておりませんが、本年の 7 月 13 日から 14 日にかけて九州北部豪雨による被害は甚大なものでございました。そのため、家屋や農地への浸水被害が相当な範囲で発生しました。私どもの筑後川中下流域住民の生命、身体、財産を守るためには、頑丈で強い貯留施設のダムの建設が、私は必要不可欠ではないかと思っております。とにかく今、スーパー堤防なんかが中心になっておりますが、洪水対策最大の防御施設は上流ダム建設であると思われる事から、筑後川中下流域におけるスーパー堤防は小石原川ダムであると、私は強く思っております。

次に利水対策について述べさせていただきます。利水対策とは、流水の正常な機能の維持対策が一体的なものだと考えております。筑後川は一週間も雨が降らなければ水無し川になります。水事業に係わっていない人からは「筑後川は、水が多いですね」とよく言われますが、安心して使える水は本当にありません。ダム無くして何処に水を確保するんですか。筑後川流域の下流の方は、金気（かなげ）で安全な水を使えませんので、非常に皆さん苦勞しております。八女市あたりでは水源に上水道の水を求めておられる訳でございます。昭和 57 年から開始した筑後川国営土地改良事業期間中において、昭和 53 年、57 年、平成 6 年、平成 21 年度の異常渇水以外にも、夏季通水期間に近年の小雨傾向により 6 月中旬の代掻き・田植えが出来ないような時期がございました。私どもはこのダムをどうしても建設して、この筑後川両岸における農業用水の水戦争が起きないように、とにかく考えて頂きたいというふうに思っております。この流水の正常な機能の維持をするためにはダムを造りまして、瀬の下で毎秒 40 トンを確保するためには、ダム以外にはありません。小石原川ダムによる 1,170 万トンの水を確保し、そして不特定用水量が私どもでは 2,242 万トン必要でございます。現在は寺内ダムに 70 万トン、大山ダムに 470 万トンの 540 万トンしかありません。これは必要量の 24%、4 分の 1 です。それで小石原川ダムを是非造って頂いて、この 1,170 万トンの不特定用水を加えて 1,710 万トンになります。そうすると必要量の約 76%の水を確保出来る訳でございます。

小石原川ダム建設を長年希望して来た者として、3 年前「新たなダム建設をさせない」と言われた事に対し、損害賠償を要求したい程私は腹が立っております。「新たなダムを建設させない」とダム宣言の結果、今回の北部九州豪雨災害は勿論の事、昨年近畿地方における台風被害も地域に沿ったダムさえあれば、このような被害は出なかったのではないかと思います。「コンクリートから人へ」と明言がありましたが、1 億 2 千万人の生き抜くための水をどうやって貯めろと言う事が理解出来ません。今まで私が申し上げました事について「それ位の事は誰でも分か

っている、偉そうに言うな」と怒られるかも知れませんが、安心して安全な農業用水をこの広大な筑後平野に届ける義務がある土地改良区を運営する一員として、心からの叫びであるとご理解願いたいと存じます。本日はこのような発言をする機会を得ました事について感謝申し上げますと共に皆様のご尽力で是非、小石原川ダム建設を早急に開始して頂きますようお願い致します。ご静聴ありがとうございました。

○住民（3番）

久留米市内在住の●●と言います。私は小石原川ダムは無駄なダムだという視点で話しをします。

小石原川ダムの目的の水道用水の部分が12%で、78%は緊急性の無い不特定用水を占めているというダムなんですね。先ほどの方は、ダムができると洪水があたかも無くなるように発言しましたが、これはダムの上流に大雨が降ったときはそれで済むんですね。ところが、ダムの下流に雨が降ったら、ダムは何の役にも立たないと、そのことを無視して発言されています。洪水調節の機能はこのダムは、10%しかもっていないのですね、しかも、ダムが繋がって造られるという新しい方式なわけですけども、それが非常に近接したところに二つダムがあると、そうするとですね、ダムの調節で洪水をストップしていたけれども、満水になったら放水しなければいけないと当たり前なことなんですね。そういう状態が、実際にこの度の集中豪雨でもあってるんですね。ダムの上流にたまたまうまく雨が降ったと、ところが満水になったから放水しなくてはいけないと、マニュアルに沿って放水しますということなんだけど、下流域は洪水になってしまったと。だから、ダムがあれば洪水が防げるというのは幻想であると言うことははっきりしています。

次はこの不特定用水が何なのかというと、環境維持用水と書いてあるんですね。で、結局は下流域の動植物を維持するためなんだという説明になっています。ところが、ダムを建設するために、多数の動植物が抹殺されると。それでどうして環境を維持するんかという話なんですね。

もう一つは、ダムを造るとダムの中に水没する動植物がかなりあります。少なくとも植物は多数水没します。それによって、ガスが発生するわけですね。それで水質が悪化するということは、これまで多数のダムができて、ダム湖の水が悪化したという例は多数あります。水はあるかもしれないけども、良質な水が流れてくるんじゃなくて、水質が悪くない水が流れてくると。その水でも流れないよりはいいのだという発想なんですね。

もう一つ、湖内のところは水温が通常流れている川と大きく違うという部分もあります。ですから、ダムの水を流すときに、上流の、上の方の水をちょろちょろ流す分には影響は小さいけれども、下の方から流した場合には、水温が低い水が流れるわけです。環境維持どころか、環境が悪化すると、下流の魚介類は死ぬということが、当然起きるわけです。こういう視点も含めて、環境維持と言っているけど、環境を悪化させる水になりかねないと、いう側面があるんだということですね。

それとダム建設で水没した樹木・植物は、冠水すると腐敗すると。これは先ほども触れましたけども、そのことによって大量にメタンガスが発生するという問題も含んでいるんですね。そのことによって、ダムは通常は発電するから、温暖化に貢献するんだと言うことになっていますけども、メタンガスを大量に発生すると、温暖化現象がプラスになると、加速されるということ

すね。しかも、これは、このダムは、発電はくっついていないわけですから、温暖化の温暖化問題に貢献はしないということで、川の環境や生態系が維持できるということは、机上の話であって、実際には、そういうことにならないという視点で、このダムが適切なダムというには思われたいということで終わりにします。

○住民（４番）

久留米市在住でございます。私は水道供給、給水を受ける側からの立場として、意見を申し上げたいというふうに思っております。

皆さんご存じのとおりに久留米市は１級河川が市街を横断するような地形的に非常に恵まれたところがございます。上流は田主丸、大きな圃場がありまして農業が盛んな地域でございます。また、下流の方には城島という酒処、全国でも有名な酒処というのがございます。このようなことから久留米市は水で成り立っているんじゃないか、というような町でもあるかというふうに思います。久留米市と言えはすぐに筑紫次郎、筑後川というようなことを想像される方が非常に多いんじゃないかというふうにも思います。

私も子供の頃は筑後川でよく遊びました。魚を釣ったり、あるいは泳いだり、土手で遊んだりというようなことをやりました。昔は、筑後川も本当に水がきれいでした。私たちが小さい頃は本当に飲んでもいいような水が流れていました。特に支流、筑後川の支流の小川の脇というのは小さな石段があって水場に降りて行って、そこで水を汲むとかあるいはそこで食器を洗うとか茶碗を洗うとか、そういうふうな風景がございました。そのような光景があちこちで昔は見られたわけでございます。しかし、現在の筑後川はいかがでしょう、昔とずいぶん変わってきたように思います。これは地球温暖化のせいもあるかも知れませんが、豪雨あるいは渇水と言うようなことで流況が非常に不安定になってきているんじゃないかというふうなことを感じております。生息する生態系にも影響しているんじゃないかというふうに感じております。私と致しましては、いつまでも変わらないふるさと筑後川として是非残していきたいというふうに考えておるところでございます。

現在、久留米市の生活用水、これはほとんどがもう水道水を利用されているんじゃないかと思いますが、昔の水道はほとんどが井戸水ということで用水を確保しておりました。現在でも産業の中の一部では、地下水を利用されていると言うことを聞いたことがあります。しかし地下水は地盤沈下というようなことも考えられる訳でございます。水質面の問題、これもあるかと思えます。特にヒ素関係については、生活用水として利用するにはどうかということで少し心配する動きもございます。この点水道水はきれいで、浄水場で適切に浄水されております。また、徹底した水質管理のおかげで安心して飲める水ということが全国的にも言われております。

久留米市には筑後川というのがあるので、水が大変多いように感じておられる方もおられるかも知れませんが、久留米市の水道用水として使われるのは、これは一部でございまして、あとは福岡市だとか、佐賀県だとか、そちらにも用水が行っています。このように数々の利権が絡んでおられて、思ったほど自由に使える水が少ないんじゃないかというふうに思うわけでございます。筑後川は今でも２年に１度くらいの頻度で取水制限ですか、こういうのがあります。そのような事を考えますと今回の検証の中で述べられておりますように、ダム以外の水源開発の代替

案として検討され、小石原川ダム案が有利であると取りまとめられておられますが、私もそれに賛同するわけでございます。

小石原川ダム建設は、久留米市の農業あるいは産業、工業において、水の安定を確保致しまして、また私の故郷でもある筑後川の環境を、河川環境を守る事業だというふうにお聞きしております。私としましては流況の安定を図って頂きまして後生の人々が安心した生活を営めることが出来ますように検討報告書の結果を尊重し、ダムの建設を支持したいというふうを考えております。また、出来れば早期に促進して頂ければというふうな事を思っているわけでございます。今日はどうもこの機会を頂きましてありがとうございました。